

# 第2回 ダム等に関する情報提供のあり方検討会 次第

日時：令和6年2月7日（水） 14：00～

場所：富山県防災危機管理センター2階 中会議室

## 1 開 会

## 2 議 事

- (1) ダム等に関する情報提供のあり方検討会の流れについて
- (2) 第1回検討会でいただいた意見とその背景・課題
- (3) 各課題に対する具体的な取り組み(案)

## 3 その他

今後のスケジュールについて

## 4 閉 会

# 第2回 ダム等に関する情報提供のあり方検討会

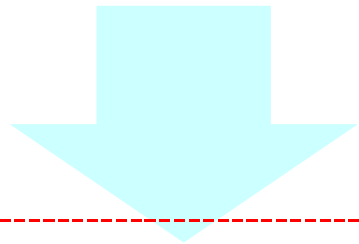
令和6年2月

富山県土木部河川課

## 開催概要

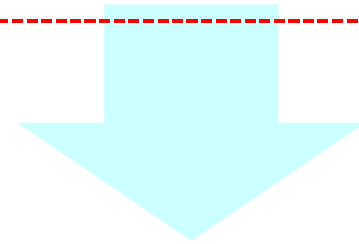
### 【第1回：令和5年11月20日】

- ・令和5年6、7月豪雨の降雨状況等
- ・県（河川課、土木、ダム管理事務所）、関係市町村の情報提供等の状況
- ・課題の抽出



### 【第2回：令和6年2月7日】

- ・より有効な情報提供のあり方（案）



### 【第3回：令和6年3月頃】

- ・より有効な情報提供のあり方とりまとめ

## 内容

大雨に備えた関係機関への通知や住民への周知のあり方の検討

- 令和5年6、7月豪雨の降雨状況、被害状況
- ダム等に関する情報提供等の状況
- ダム等に関する情報提供等の課題

- 第1回検討会でいただいた意見とその背景・課題
- 各課題に対する具体的な取り組み（案）

「検討内容」とりまとめ

# 第1回検討会でいただいた意見とその背景・課題

# 第1回検討会でいただいた意見とその背景・課題 (1/5)

## 1. 平常時からの情報提供

意見	背景	課題
1 ダムが異常洪水時防災操作（緊急放流）した際に下流でどう いう被害が出るのかがわかる多重 <b>ハザードマップ</b> を作っては どうか。	ダム下流の住民が避難に活用できる情報を 予め提供することが必要	・ダム下流の河川で想定される浸水状況の周知《ア》
2 ダムが <b>こういう操作（異常洪水時防災操作）</b> をすると下流の <b>河川ではどうなるのか、情報共有を図ることが大事。</b>	ダム操作がなされた際の対応についての予 めのイメージ共有が必要	・ダムの機能や操作等に対する認知度の向上《イ》
3 <b>どのようなときに異常洪水時防災操作をするのか</b> 、平時から 防災操作をすると何トンの水が放流されるのか、ということ を <b>事前に共有</b> しておいてほしい。	ダム操作がなされた際の対応についての予 めのイメージ共有が必要	
4 河川管理者だけでなく市町村も受け取った <b>情報をどう危険地 域に分配するか</b> 考えてほしい。	危険な地域の住民へ市町村から情報が伝わ る仕組みが必要	
5 異常洪水時防災操作（緊急放流）が今後もあり得るという ことを前提に、最終的に <b>住民まで情報がどのように伝わるか、 その連絡体制を</b> 考えていただきたい。	緊急時に住民へ情報が確実に伝わる体制が 必要	
6 県内の市町村全体で情報共有し、 <b>情報伝達訓練を行う</b> べき。	緊急時の対応について、県内市町村で共通 認識をもっておくことが重要	
7 少人数でも何とか緊急対応できるように <b>日頃からの訓練</b> を県 や防災士さんと連携し、実施すればよい。	少人数でも緊急対応を可能にする体制を整 えておくことが重要	・災害時の適切な行動に繋がる防災情報の活用《ウ》
8 防災講座に出て来られない <b>高齢の方への避難指示に関する仕 組みの説明</b> が課題。	いち早く避難行動を必要とする高齢者に対 して防災に関する情報を速やかに提供す ることが重要	
9 県民の方々の <b>防災に対する意識向上と維持</b> が課題。	災害発生から時間が経過すると防災に対 しての意識が薄れてしまう	
10 ダムがあるから下流は安心という意識はなくなり、住民か ら <b>緊急時の情報伝達方法について、早く教えて欲しい</b> という 意見がある。	緊急時に住民が避難に活用できる情報を速 やかに発信することが重要	

# 第1回検討会でいただいた意見とその背景・課題 (2/5)

## II. 緊急時の市町村等への情報提供 (1/2)

意見	背景	課題
1 担当者への <b>連絡手段はライングループ</b> とかでもいいのではないか。	緊急時に市町村等の担当者に一連で情報提供できる体制を整えておくことが重要	
2 自治体のビジネスチャットを用いれば、 <b>組織が違っても同じ情報をすぐに共有</b> できるのではないか。	緊急時に市町村等の担当者に一連で情報提供できる体制を整えておくことが重要	
3 FAXでやりとりしては時間がかかる。ズームやラインで <b>一気に情報共有</b> できるようにすべき。	緊急時に時間をかけず、速やかに情報提供することが必要	
4 第1報を早くいただくことは大変重要であるため、首長へのホットラインに加えて、 <b>市町村の災害対応職員に一斉連絡</b> する方法があればよい。	住民が避難する対応に速やかに移行するため、一斉に情報提供することが必要	
5 異常洪水時防災操作（緊急放流）への移行が決定してから連絡するのではなく、 <b>空振りの可能性があってもダム状況により異常洪水時防災操作（緊急放流）するかもしれないという時点で情報提供</b> があれば、避難誘導のための指示を出す時間をもう少し取れると思う。	住民が避難するための準備に取り組むために、事前の情報提供が重要	<ul style="list-style-type: none"> <li>市町村長が避難情報の発令を判断するために必要となる情報や伝達されるタイミング</li> <li>ダム情報と避難情報の発令の関係の明確化 《エ》</li> </ul>
6 <b>緊急時に一刻も早く情報伝達</b> することが必要。	住民が避難するための時間を確保するため、速やかに情報提供することが重要	
7 避難所の開設や避難指示のため、ある程度時間が必要であることから、降雨などの気象状況、ダムの異常洪水時防災操作（緊急放流）の予定の状況など、 <b>可能な限り早い段階で情報を示して</b> ほしい。（例えば避難判断水位や氾濫危険水位に到達するであろう予測時間）	住民が避難するための時間を確保するため、ダムや河川の状況を情報提供することが重要	

# 第1回検討会でいただいた意見とその背景・課題 (3/5)

## II. 緊急時の市町村等への情報提供 (2/2)

意見	背景	課題
8 <u>早めの情報提供としてはキキクル</u> があり、洪水予測について、3時間先の予報が入るので、リードタイムをとるための参考情報としてチェックしていただきたい。	洪水予測の精度が年々向上しているため、避難情報の発令に活用することが重要	・市町村長が避難情報の発令を判断するために必要となる情報や伝達されるタイミング
9 市町村のタイムラインのチェック、ホットラインを <b>危険な地区の防災組織単位まで届く</b> ように考えてほしい。	危険な地域の住民へ情報が伝わる体制が必要	・ダム情報と避難情報の発令の関係の明確化 《エ》

# 第1回検討会でいただいた意見とその背景・課題 (4/5)

## III. 緊急時の住民への情報提供 (1/2)

意見	背景	課題
1 防災はスピードが大変重要なため、 <b>プッシュ型の情報を提供する仕組み</b> が大事であり、課題でもある。	緊急時に住民が避難に活用できる情報を速やかに発信することが重要	
2 サイレン吹鳴とスピーカー放送が通常の放流時と異常洪水時防災操作（緊急放流）時で <b>同じ放送が流れるということは危機感がわからない。</b>	ダム下流の住民がサイレンの音やスピーカー放送を聞いて危機感が伝わることが重要	
3 サイレンについて、派手な音とか、 <b>おどろおどろしい音とかを試して富山版を作ってもいいのではないか。</b>	ダム下流の住民がサイレンの音を聞いて危機感が伝わることが重要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 緊急性や切迫感が十分に伝わる手法</li> <li>・ ダム貯水池の状況が十分に伝わる手法</li> </ul>
4 河川だけではなく、 <b>地域住民に向けてもサイレンで警告</b> を発することができるような、機器の設置や運用を考えてほしいという意見がある。	ダム下流の住民にサイレンにより警告することが重要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防災情報の利用</li> </ul> 《オ》
5 <b>早めの情報提供としてはキキクル</b> があり、洪水予測について、3時間先の予報が入るので、リードタイムをとるための参考情報としてチェックしていただきたい。	洪水予測の精度が年々向上しているため、避難情報の発令に活用することが重要	



# 第1回検討会でいただいた意見とその背景・課題 (5/5)

## III. 緊急時の住民への情報提供 (2/2)

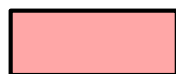
意見	背景	課題
6 SNSが使えない、防災行政無線も聞こえない高齢者の方に個別に受信機を貸し出しているが、 <b>すべての住民の方に伝える</b> ことはなかなか難しい。	ダム下流の全ての住民に対して緊急時の情報が伝わる必要がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>報道機関への情報提供や住民への情報伝達手段等の充実《力》</li> </ul>
7 <b>市町村が避難指示の判断を出すタイミングについて</b> 、氾濫危険水位だけでなく、異常洪水時防災操作（緊急放流） <b>開始の段階でも検討</b> してはどうか。	ダム下流の住民が避難する時間を確保するため、速やかな情報提供が必要	
8 本当に危ないところを特定し、 <b>ピンポイントでアラートを出すシステム</b> を作れないか。	本当に危険な地域の住民へ情報が伝わる仕組みが必要	
9 高齢者は避難に時間がかかるため、 <b>人命を守るために避難指示の方法について検討</b> したい。	いち早く避難行動を必要とする高齢者に対して速やかに情報伝達することが重要	
10 山間部の集落では低いところから高いところまで距離があるため、1軒1軒回っての <b>スムーズな避難指示の伝達</b> が困難である。	いち早く避難行動を必要とする高齢者に対して速やかに情報伝達することが重要	

# 各課題に対する具体的な取り組み(案)

# 各課題に対する具体的な取り組み(案)

方策	課題	取り組みの内容	委員 意見
I. 平常時からの 情報提供	《ア》 ・ダム下流の河川で想定される浸水状況の周知	① ダム下流の中小河川における浸水想定区域図の充実《県》	I-1
		② ダム下流のハザードマップの充実《市町村》	I-1
		③ ダム操作に関する担当者研修・会議の開催《県・市町村》	I-2、3
	《イ》 ・ダムの機能や操作等に対する認知度の向上	④ ダム操作に関する住民説明会の開催《県・市町村・住民》	I-2
		⑤ 住民に対するダム見学会の開催《県・住民》	I-2
		⑥ 情報伝達体制の構築《県・市町村・住民》	I-4、5
	《ウ》 ・災害時の適切な行動に繋がる防災情報の活用 や防災訓練	⑦ 情報伝達訓練の実施《県・市町村・住民》	I-6、7
		⑧ 緊急時の情報伝達に関する住民説明会の開催《県・市町村・住民》	I-8、9、10
		⑨ 住民参加型の訓練の実施《県・市町村・住民》	I-8、9、10
⑩ 複数の手段による連絡体制の強化《県・市町村》		II-1、2、3、4	
II. 緊急時の市町村等 への情報提供	《エ》 ・市町村長が避難情報の発令を判断するために 必要となる情報や伝達のタイミング ・ダムや河川の情報と避難情報の発令の関係の 明確化	⑪ 避難指示等の発令判断をするための情報伝達のタイミングの見直し《県》	II-4、5、6、8
		⑫ ダム下流河川監視カメラの拡充《県》	II-7
		⑬ 県のWebサイトにダム情報を表示《県》	II-7
		⑭ ダムの洪水調節機能を踏まえたタイムラインの整備《県・市町村》	II-9
		⑮ 登録制メールによるプッシュ型配信《県》	III-1
III. 緊急時の住民への 情報提供	《オ》 ・緊急性や切迫感が十分に伝わる手法 ・ダム貯水池や河川の状況が十分に伝わる手法 ・防災情報の利用	(⑫ダム下流河川監視カメラの増設《県》【再掲】)	
		(⑬県のWebサイトにダム情報を表示《県》【再掲】)	
		⑯ スピーカー放送のアナウンス内容の見直し《県》	III-2
	《カ》 ・報道機関への情報提供や住民への情報伝達手 段等の充実	⑰ サイレンの吹鳴回数や音の見直し《県》	III-2、3、4
		⑱ 戸別受信機の有効利用《県・市町村》	III-6、9、10
		⑲ 避難指示発令のタイミングの見直し《市町村》	III-7
		⑳ Lアラートの充実《県》	III-8
		㉑ エリアメールの整備《県・市町村》	III-8

※凡例



：直ちにに取り組むこと



：順次着手して取り組むこと



：検討の上、取り組むこと

(豪雨後着手済みのものを含む)

# I. 平常時からの情報提供 (1/3)

- ①ダム下流の中小河川における浸水想定区域図の充実《県》
- ②ダムの下流ハザードマップの充実《市町村》

ダム下流の中小河川における想定最大規模降雨の洪水による浸水想定区域図を基に、洪水ハザードマップを充実させ住民に周知

野村地区洪水ハザードマップ

野村ダム

西予市野村地区の洪水ハザードマップ

マイ・タイムライン

ダム放流情報

野村ダムの放流について



# I. 平常時からの情報提供 (2/3)

## ③ ダム操作に関する担当者研修・会議の開催 《県・市町村》

ダムの操作への認識を共有するための担当者研修・  
会議の開催



富山新聞 (R5. 7. 22)

ダム管理担当者及び河川管理担当者会議 (R5. 7. 21)

## ④ ダム操作に関する住民説明会の開催 《県・市町村・住民》

ダムの操作やその際に提供される  
情報と避難行動との関係に関する  
説明会の開催  
(ダムの機能やその限界について  
も理解を深める)



白岩川ダム住民説明会 (H28. 8. 25)

## ⑤ 住民に対するダム見学会の開催 《県・住民》

ダム見学会において、**ダムの機能や操作への理解を深める**



白岩川ダム見学会 (R3. 4. 21)



白岩川ダム見学会 (R元. 6. 19)



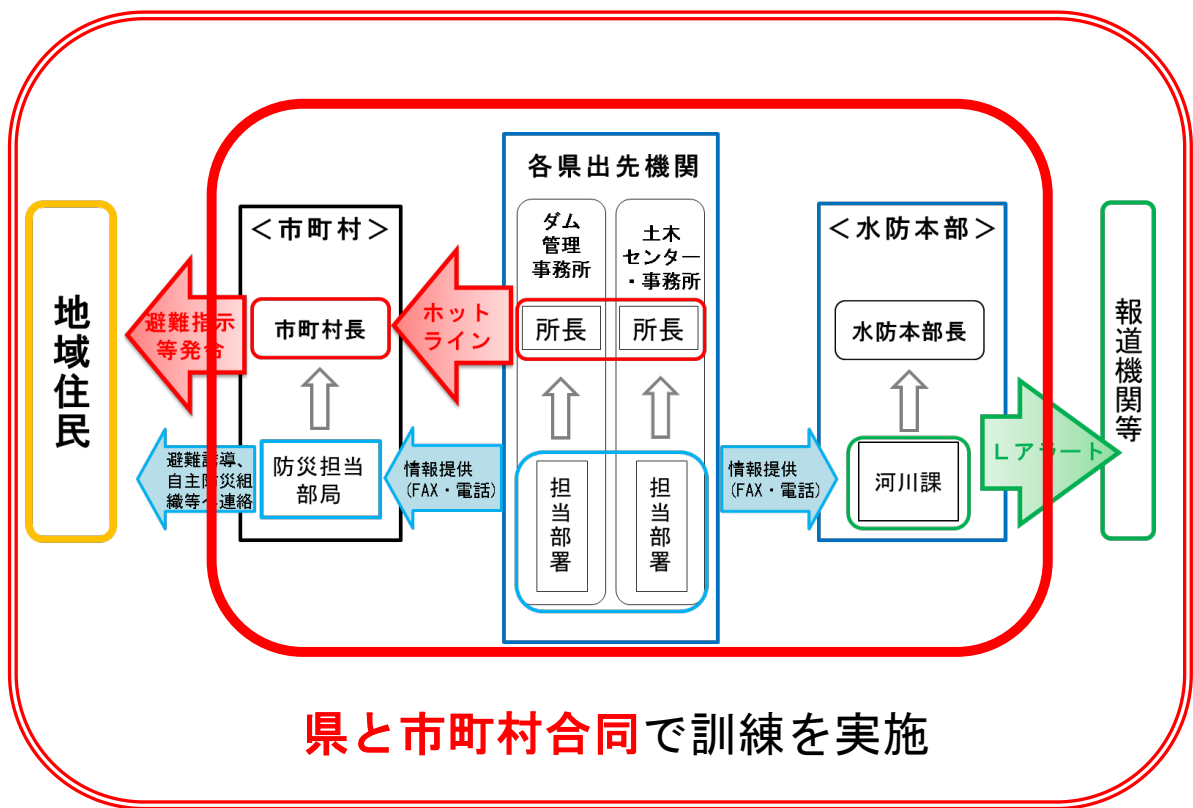
# I. 平常時からの情報提供 (3/3)

- ⑥ 情報伝達体制の構築 《県・市町村・住民》
- ⑦ 情報伝達訓練の実施 《県・市町村・住民》

- ⑧ 緊急時の情報伝達に関する住民説明会の開催 《県・市町村・住民》
- ⑨ 住民参加型の訓練の実施 《県・市町村・住民》

異常洪水時防災操作（緊急放流）時の情報伝達体制を構築し、正確かつ迅速に情報を伝達するため訓練を実施

あらかじめ避難のタイミングや避難ルートを設定し、避難訓練を実施する



県と市町村合同で訓練を実施

情報伝達体制を構築



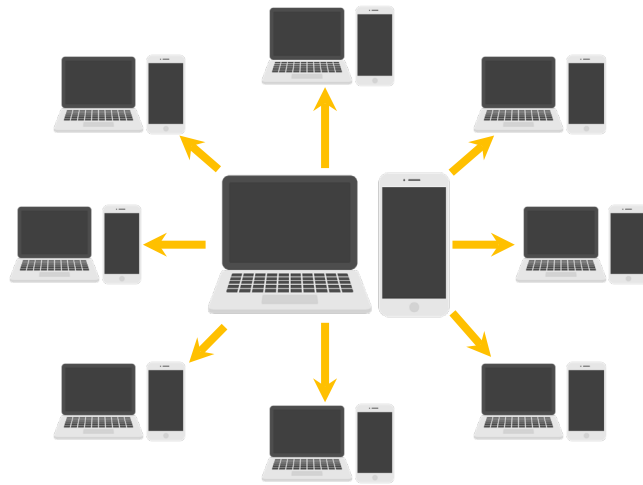
出典：野村ダム・鹿野川ダムの操作に関わる情報提供等に関する検証等の場（国土交通省四国地方整備局）資料より

## Ⅱ. 緊急時の市町村等への情報提供 (1/3)

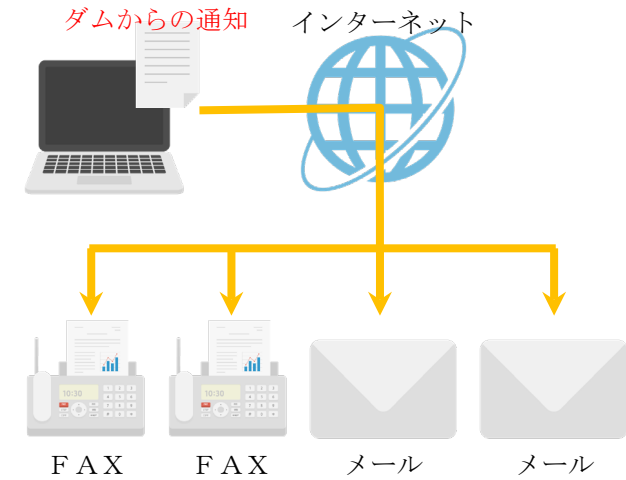
### ⑩ 複数の手段による連絡体制の強化《県・市町村》

PCやスマホから  
グループメンバーに対し  
**一斉に同じ情報を共有する**

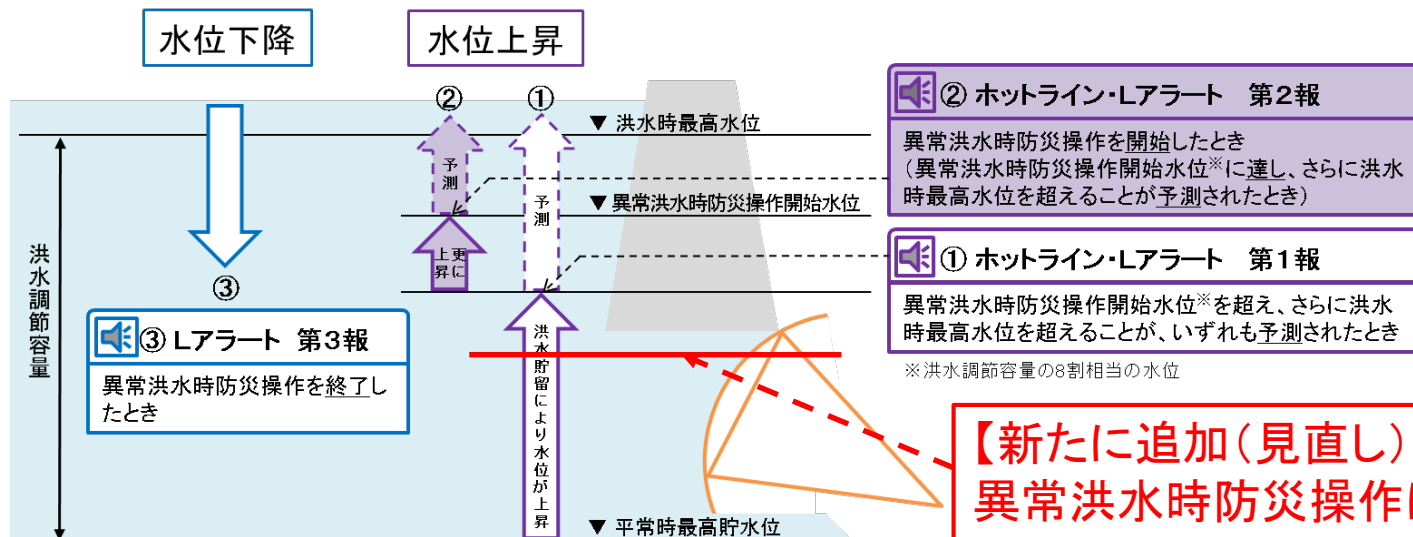
- ・ ライン
- ・ ビジネスチャット



ダムからの通知を  
FAXやメールで  
**一斉に関係機関へ通知する**



### ⑪ 避難指示等の発令判断をするための情報伝達のタイミングの見直し《県》



**【新たに追加(見直し)】**  
異常洪水時防災操作に移行する可能性がある旨を県から関係市町村へ事前連絡



## Ⅱ. 緊急時の市町村等への情報提供 (2/3)

### ⑫ ダム下流河川監視カメラの拡充《県》



放流に伴うダム  
下流河川の状況を  
把握・提供する  
ために河川監視  
カメラを増設

河川監視カメラを  
新たに1箇所設置

河川監視カメラを  
新たに1箇所設置



# Ⅱ. 緊急時の市町村等への情報提供 (3/3)

## ⑬ 県のWebサイトにダム情報を表示《県》

ダム情報（**全流入量・全放流量・貯水位**）を表示し、洪水調節容量内の貯水割合（ダムに貯められる水の割合）が**0%、20%、50%、80%**を超過した場合に色が変わる

富山防災 WEB

ダム情報

「ダム情報」の追加

県内ダム情報実況表 (2024年02月00日00時00分)

凡例 洪水調節容量における貯留割合 0%以下の貯水位 0%オーバーの貯水位 20%オーバーの貯水位 50%オーバーの貯水位 80%オーバーの貯水位

ダム名	水系名	全流入量 m³/s	全放流量 m³/s	貯水位 m	参考情報			
					洪水調節容量 における 貯留割合 0%の水位	洪水調節容量 における 貯留割合 20%の水位	洪水調節容量 における 貯留割合 50%の水位	洪水調節容量 における 貯留割合 80%の水位
土木部所管ダム								
室牧ダム	神通川水系弁田川(1級)	00.00	00.00	000.00→	000.00	000.00	000.00	000.00
上市川ダム	上市川水系上市川(2級)	00.00	00.00	000.00→	000.00	000.00	000.00	000.00
和田川ダム	庄川水系和田川(1級)	00.00	00.00	000.00→	000.00	000.00	000.00	000.00
利賈川ダム	庄川水系利賈川(1級)	00.00	00.00	000.00→	000.00	000.00	000.00	000.00
白岩川ダム	白岩川水系白岩川(2級)	00.00	00.00	000.00↓	000.00	000.00	000.00	000.00
子楡川ダム	小矢部川水系子楡川(1級)	00.00	00.00	000.00→	000.00	000.00	000.00	000.00
角川ダム	角川水系角川(2級)	00.00	00.00	000.00→	000.00	000.00	000.00	000.00
熊野川ダム	神通川水系熊野川(1級)	00.00	00.00	000.00→	000.00	000.00	000.00	000.00
上市川第二ダム	上市川水系上市川(2級)	00.00	00.00	000.00→	000.00	000.00	000.00	000.00
朝日小川ダム	小川水系小川(2級)	00.00	00.00	000.00→	000.00	000.00	000.00	000.00
布施川ダム	片貝川水系布施川(2級)	00.00	00.00	000.00→	000.00	000.00	000.00	000.00
城端ダム	小矢部川水系山田川(1級)	00.00	00.00	000.00→	000.00	000.00	000.00	000.00
境川ダム	庄川水系境川(1級)	00.00	00.00	000.00→	000.00	000.00	000.00	000.00
大谷ダム	黒瀬川水系大谷川(2級)	00.00	00.00	000.00→	000.00	000.00	000.00	000.00
久郷瀬川ダム	神通川水系久郷瀬川(1級)	00.00	00.00	000.00→	000.00	000.00	000.00	000.00
舟川ダム	小川水系舟川(2級)	00.00	00.00	000.00→	000.00	000.00	000.00	000.00

## ⑭ ダムの洪水調節機能を踏まえたタイムラインの整備《県・市町村》

ダムの放流情報等避難行動を整理した防災行動計画を策定

水系名: 肱川  
河川名: 肱川・矢落川

風の接近・上陸に伴う洪水を対象とした、肱川直轄河川管理区間沿川における大洲市の避難勧告の発令等に着目した**タイムライン**(防災行動計画)(案) H28.4.1現在

※時間経過は、平成16年16号台風を参考。

時間経過	気象・水象情報	大洲河川国道事務所	大洲市	住民等
-72h	・台風予報 ・台風に関する愛媛県気象情報	・洪水予報等情報提供先の確認 ・樋門等の点検・動作確認(燃料も) ・災害対策用資機材、復旧資機材の確認 ・人員配置確認 ・リエゾン体制の確認 ・排水ポンプ車(以下「排水P車」)の点検整備		・TV、ラジオ、ネット等による気象情報等の確認 ・ハザードマップ等による避難所、避難ルートの確認
-48h	・台風に関する松山地方気象台説明会	・水位雨量観測所点検業者の連絡先確認 ・流観体制確認 ・特別監視の連絡体制、監視ルート等確認 ・災害協定業者の体制確認 ・大洲市との連絡体制(ネット等)再確認	・指定避難所の被災者受け入れ体制確認 ・人員配置確認 ・小型船舶等の事前係留 ・自主防災組織等への注意喚起、体制確認	・災害、避難カードの確認 ・防災グッズの準備 ・自宅保全
-24h	・大雨注意報、洪水注意報発表 ・大雨警報、洪水警報発表	・野村、鹿野川ダム事前放流の確認 ・排水P車据付け(東大洲地区)及び体制確認 ・事務所体制確認 ・許可工物管理者への確認	・災害対策用資機材、復旧資機材の確認 ・幼稚園・小中学校校舎の判断、体制の確認等 ・水防団等への注意喚起、体制確認 ・災害警戒本部の設置(警戒配備)	・TV、ラジオ、ネット、携帯メール等による大雨、河川情報等取得

0h (0:30) 洪水予報 (はん濫発生情報) → 大洲第2観測所一水水位 (6.82m)

4h (4:30) 南予北部強風注意報解除

東大洲二級堤越え流況 → 東大洲、平地区避難指示

避難完了(要配慮者以外)

・自主防災組織等による情報収集、伝達、避難誘導等  
・災害救援ボランティアの活動

※大洲市災害対策本部の配備レベル  
・警戒配備:危機管理課職員・各対策部連絡員  
・第1配備:職員の概ね1/6以内の人員  
・第2配備:職員の概ね1/3以内の人員  
・第3配備:職員の概ね2/3以内の人員  
・第4配備:全職員

※肱川本川における各種避難情報の伝達先は、東大洲、平地区をモデル地区とする。

出典: 野村ダム・鹿野川ダムの操作に関わる情報提供等に関する検証等の場 (国土交通省四国地方整備局) 資料より

# Ⅲ. 緊急時の住民への情報提供 (1/2)

## ⑮ 登録制メールによるプッシュ型配信《県》



富山県

河川が増水し、受信したい情報の閾値を超えると



自動的にメールを配信

登録ユーザー



事前に受け取りたい観測所の情報を登録  
(〇〇観測所の〇〇水位)

## ⑯ スピーカー放送のアナウンス内容の見直し《県》

異常洪水時防災操作移行の周知について、  
緊急性がより切迫感を持って伝わるように見直し

【切迫感の伝わるアナウンス内容に見直し】

《異常洪水時防災操作開始時》  
こちらは〇〇川ダム管理事務所です。  
これからダムの放流により  
**更に**川の水が増えます。  
**甚大な洪水被害が発生する  
恐れがあります。**  
**非常に危険ですのでただちに  
命を守る行動をとってください。**

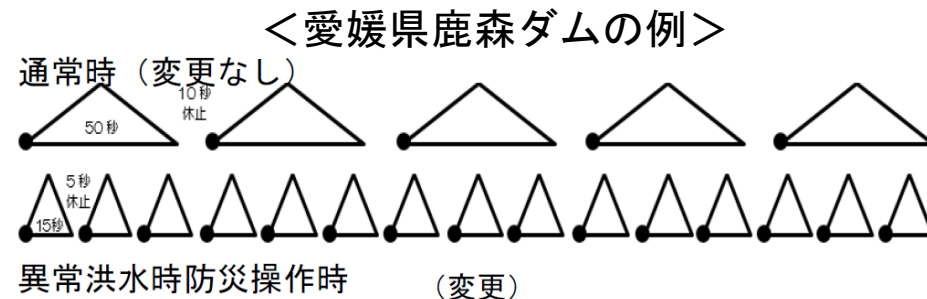


⑫ ダム下流河川監視カメラの増設《県》【再掲】)

⑬ 県のWebサイトにダム情報を表示《県》【再掲】)

## ⑰ サイレンの吹鳴回数や音の見直し《県》

通常時と異常洪水時防災操作（緊急放流）  
でサイレンの吹鳴回数や音を変える



出典：ダムの洪水調節に関する検討会（国土交通省水管理・国土保全局河川環境課）資料より



# Ⅲ. 緊急時の住民への情報提供 (2/2)

## ⑱ 戸別受信機の有効利用《県・市町村》

異常洪水時防災操作（緊急放流）等の  
情報を戸別受信機でお知らせ



出典：野村ダム・鹿野川ダムの操作に関わる  
情報提供等に関する検証等の場  
(国土交通省四国地方整備局) 資料より

## ⑳ Lアラートの充実《県》

Lアラートの配信先を増やすことで、異常洪水時防災操作  
(緊急放流) 等の**情報発信をより充実**させる

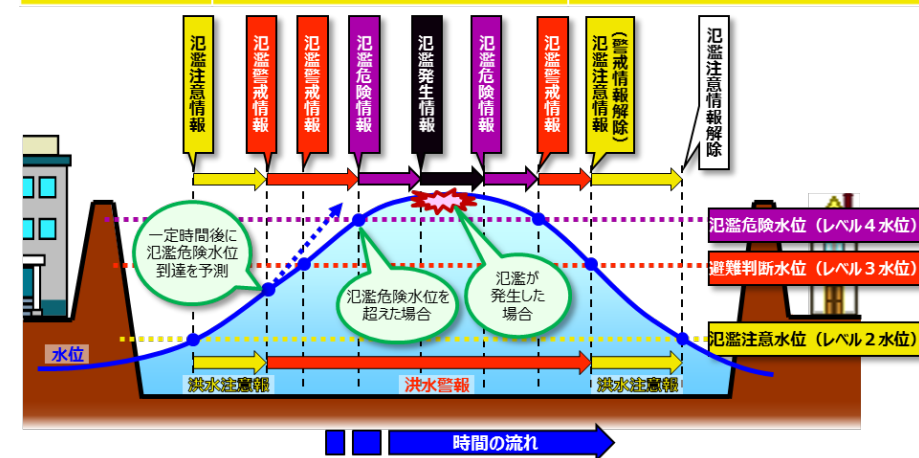


出典：一般財団法人マルチメディア振興センターHPより

## ㉑ 避難指示発令のタイミングの見直し《市町村》

水位に加え、  
異常洪水時防災操作  
(緊急放流) での  
避難指示発令  
について  
関係者で調整

洪水予報の標題 (種類)	発表基準	市町村・住民に求める行動の段階
○川氾濫発生情報 (洪水警報)	氾濫の発生 (氾濫水の予報*)	氾濫水への警戒を求める段階 (警戒レベル5相当)
○川氾濫危険情報 (洪水警報)	氾濫危険水位 (レベル4水位) に到達	いつ氾濫してもおかしくない状態 避難時の氾濫発生に対する対応を求める段階 (警戒レベル4相当)
○川氾濫警戒情報 (洪水警報)	一定時間後に氾濫危険水位 (レベル4水位) に到達が見込まれる場合、あるいは避難判断水位 (レベル3水位) に到達し、さらに水位の上昇が見込まれる場合	避難準備などの氾濫発生に対する警戒を求める段階 (警戒レベル3相当)
○川氾濫注意情報 (洪水注意報)	氾濫注意水位 (レベル2水位) に到達し、さらに水位の上昇が見込まれる場合	氾濫の発生に対する注意を求める段階 (警戒レベル2相当)



## ㉒ エリアメールの整備《県・市町村》

避難情報に付随する情報として、ダム管理者からの  
ダム放流量等の情報を提供



出典：野村ダム・鹿野川ダムの操作に関わる情報提供等に関する検証等の場  
(国土交通省四国地方整備局) 資料より

# 白岩川ダムにおけるサイレンの試験吹鳴について

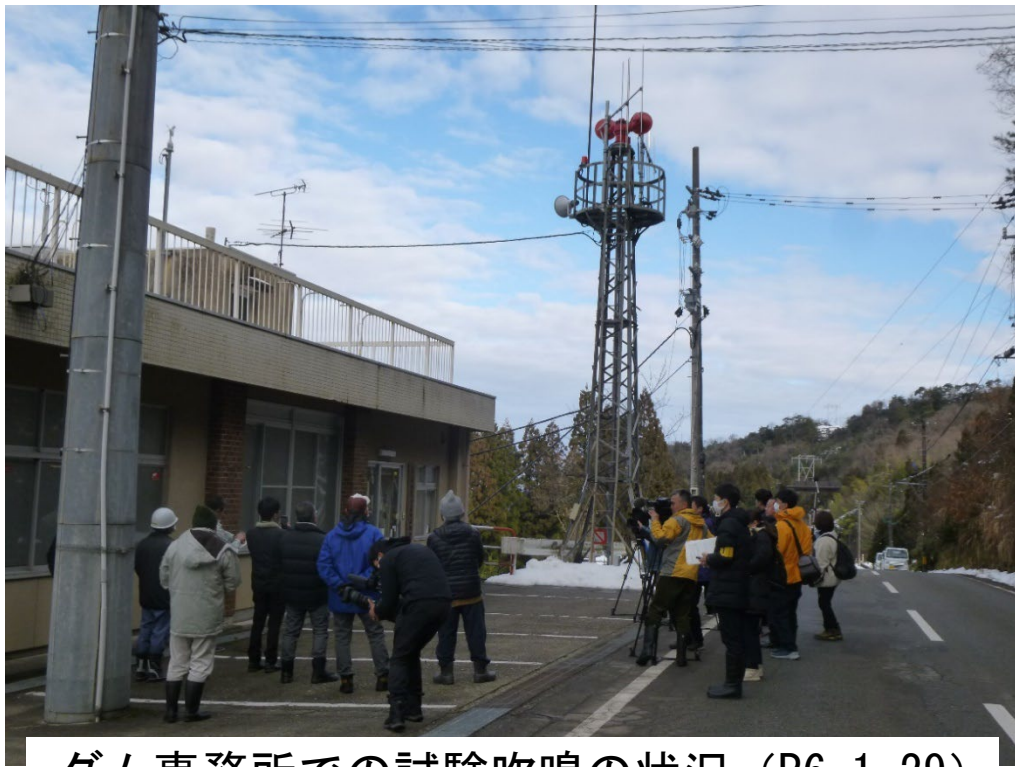
参考

➤白岩川ダムより下流（の河川区域内）に整備されている放流警報設備について、**設備機器を更新し、以下の2点を強化**しました。

①スピーカーを従来川側のみであったところ住宅側にも増設

②**昨年**の異常洪水時防災操作（緊急放流）を踏まえ、**異常洪水時防災操作（緊急放流）のアナウンスを可能に**

➤また、令和6年1月29日（月曜日）午前9時～ダム事務所にて、**立山町、上市町、地元白岩地区のみなさんの立ち合いのもと、吹鳴試験により正しく動作されることを確認**しました。



ダム事務所での試験吹鳴の状況（R6. 1. 29）

## 【立ち合い時の主な意見等】

- これで安心したわけではない、これからも万全なことをお願いしたい。
- 厳しいことを言うと、この前の洪水では音が聞こえない、もしくは小さいといった意見もあり、この音量でもまだ小さいのではないかと思う。
- サイレンの音は大きくて切迫感を感じたが、疑似音の音は優しい音だったので、あまり切迫感を感じなかった。

白岩川ダム 放流警報設備

回覧

令和6年1月29日（月）から2月2日（金）

## サイレンの試験吹鳴について



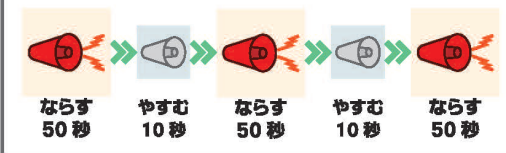
白岩川ダム管理事務所管内の放流警報設備を新しくしました。機器が正しく動作することを確認するため試験や機器の調整を行います。

令和6年1月29日（月）から2月2日（金）の9時～16時までの間、**複数回実施**します。

サイレンまたはスピーカからの吹鳴、音声による放送を行います。

ダムからの実際の放流はありません。

サイレンや疑似音の吹鳴パターン例



サイレンやスピーカから警報音が鳴ります。サイレンは「ウウウー」と鳴り、スピーカからの疑似音は「ファンファンファン」と鳴ります。

吹鳴は通常、繰り返し実施されます。（約3分）今回の試験吹鳴では上記のパターンで実施しますが1、2回の吹鳴で停止させる試験もいたします。



受注者 日本海電業株式会社 076-451-9666  
NES株式会社 076-439-6982  
発注者 富山県白岩川ダム管理事務所 076-463-0392

近隣のみなさまには大変ご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご理解のほどよろしくお願いいたします